

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：ポピンズナーサリースクール小机	種別：認可保育園
代表者氏名：小池 文子	定員（利用人数）： 45名
所在地：〒222-0036 横浜市港北区小机町2580-1	
TEL：045-470-6621	ホームページ： https://www.poppins.co.jp/educare/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2002年6月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 ポピンズエデュケア	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 17名
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士 2名
	保育士 22名
	看護師 1名
施設・設備の概要	（居室数）
	敷地面積：396.74㎡ 屋外遊技場：183.60㎡ 0・1歳児室：39.73㎡ 2・3・4・5歳児室：73.23㎡ 調理室・事務室・乳幼児トイ シ
	（設備等） 冷暖房・床暖房・空気清浄機

③ 理念・基本方針

企業理念「働く女性を最高水準のエデュケアと介護サービスで支援します。」
保育理念「人生で最も重要な時期の人間教育を目指します」
保育目標「①寛容な人間②聡明で愛情深い人間③探究心旺盛な人間④グローバル社会で活躍できる人間」
エデュケア（教育と養護）プログラムの実践に基づき、一人ひとりの才能と個性を伸ばし人間性豊かで創造性に富む人間を育成。ポピンズアプローチを実施し、子どもたちが興味関心を持っているものを見極め、個々にあった発達を促します。保護者の思いを受けとめつつ、常に子どもの立場、視点に立ち、保育所保育指針に即した保育を行います。
保育姿勢「愛情あふれる美しい保育環境、かつ自宅の居間できょうだいが穏やかに育ちあえるような安心できる保育環境の中で、私たちは子ども一人ひとり独立した存在として尊敬し、個性を伸ばし、子どもの尊厳、独立心、権利を守り充実したエデュケアの実践を目指します」

④ 施設・事業所の特徴的な取組

運営母体は35周年を過ぎ、長年の育児支援サービス分野で培ってきたスキルを社会に還元すべく展開しています。
すべてにおいて働く女性の立場に立った対応を心掛け、きめ細かな配慮が行き届くよ

う努めています。

「きょうだいが家庭の居間で育ちあうような」アットホームな環境のなかでカリキュラムに基づく各学年の個々の育ちの保証とともに、異年齢との豊かな関わりが展開しています。

エデュケア（教育と養護）実践していくために「ポピンズアプローチ」という独自の手法でお子様たちの成長を支援しています。

自宅の居間できょうだいが穏やかに育つような環境づくり

保護者の教育方針を尊重

基本的な生活習慣（生理学的理論）に基づいた保育の実践

カリキュラムは完遂を目的とするのではなく、プロセスを重視する。

近年はSDGsにも着目し、エデュケアに積極的に取り入れています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 6月 30日（契約日）～ 2023年 3月 3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

子どもや保護者の思いに丁寧に関わるように努めている

職員は、小集団の中で子ども達の発達過程や個別の特徴を丁寧に把握し、臨機応変な対応ができるように努めている。子ども達は職員とのふれあいや、異年齢保育を通して思いやりの気持ちや人との関わり方を学ぶことができている。職員は常に肯定的な言葉かけを意識し、禁止ではなくどのようにしたいのかと、子どもの目線に立ち、一緒に考えていく姿勢を大切にしており、保護者とは対面によるコミュニケーションを図り、保護者の思いも汲み取ることができるように努めている。

マニュアルが整備されており、子どもが安全・安心して生活するための体制が整っている

保育実践を行うための標準的な方法や危機管理に対するマニュアルが整備され、行き届いた保育実践が行われている。運営法人主導の研修や外部研修を受講する体制が確立されており、職員が同じ姿勢、意識をもって保育にあたることができている。ドキュメンテーションを利用し、子ども理解に多角的な見方を話し合う機会を作り保育実践の振り返りや保育の質の向上を図っている。

地域社会と連携して保育が実践されている

保育園の立地条件を利用し、ハロウィン・勤労感謝の日・夏祭りなどの行事の機会にJRとの交流や地区センター・ケアプラザなどとの地域交流を行い、保育園の存在を知ってもらう機会や、園児が社会の人々との関わりを通して地域社会の文化に気づいたり、人と関わることの楽しさや役に立つことへの喜びを感じたりと豊かな生活体験が出来るような取り組みを行っている。また、年長児の近隣園との交流は、就学に対する見通しが持てるような取り組みとともに同年代で十分体を動かして遊び込める場にもなっている。

今後期待される点

実態に見合った事業計画の策定と進捗の確認による計画の達成が期待される

事業計画の策定は法人の定めたフォーマットに従って行われているが、前年踏襲の部分が多く、達成目標が抽象的であるため、実態に見合った事業計画の策定が必要とさ

れる。また、計画の達成を客観的に判断できるよう数値化していくことも求められる。さらに、職員や保護者への開示、計画の推進状況についても定期的に確認する場を作るなど、着実な計画の達成に向けての取り組みが期待される。

個人情報の取扱いについてのさらなる工夫が求められる

ハード面での制約のため、個人情報の入った書類は、施錠可能な書庫5か所に収納されている。職員は必要に応じて見る事ができ、閲覧するルールが整っている。管理者の許可なく持ち出すことができる環境があるため、個人情報を保護する観点からさらなる工夫が求められる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

認可保育所として今年で20年を迎え、節目の年に5年ぶりの第三者評価を受審いたしました。

おいそがしい中、アンケートの回答にご協力くださった保護者様のご意見のありがたさには改めて御礼申し上げます。

職員皆で力を合わせて運営している自園についてのよいところ、改善点を再確認し明らかにできる機会となり、評価者の方からは具体的な助言をいただくことができました。

コロナ禍では、先の見えない中それでもできることはないか、つながり続けることはできないかと職員で模索し続けた期間を過ごしました。

子育て支援をめぐる社会の動向の変化、またコロナ禍を経験したことで保育園の役割の変化や重要性を再確認し、この時期に評価を受けられたことが、今後の園運営に大きく影響していくと感じております。

また、私個人的にはマネジメントの部分におきまして、課題に向き合う機会となりました。

今回ご指摘いただきました課題やそれぞれの評価につきましては、今後、より良い保育園であるため、又より良い子育て支援のために改善に向けて取り組んでいく所存です。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり